

「台湾フィールド・ワーク 2025（8日間）」募集要項

1. 趣旨

2017年10月1日に台湾教育部(文科省に相当)と九州大学が共同で開設した台湾スタディーズ・プロジェクトの一環で行っている授業での知識を元に、現地での実習を行い、台湾の文化、政治、歴史についての理解を深める。

2. 応募資格、募集人数

九州大学の正規課程の学部生、院生で、台湾の文化、政治、歴史、人権、民主主義等に興味があり、台湾の大学間協定校の学生との学術交流に関心のあるものを10名程度募集する。

3. 派遣先大学及び派遣先機関（予定）

【台北】国立台湾大学、国立台湾師範大学、228 国家記念館、景美人権文化園區、総統府、希望ないし専攻に応じて選択:総統府、台湾民主基金会、LGBT 関連 NGO、阿嬤家(女性と人権博物館)、婦女新知基金会、故宮博物館、鄭南榕記念館など。

【澎湖】潘安邦記念館、篤行十村、澎湖県澎湖海洋地質公園中心、澎湖南方四島國家公園 など。

※なお、施設見学に際しては、必ず教員や中国語が話せる現地スタッフが付き添い安全確保を行う。
東京大学の学生、教員との合同プログラムでもある。

4. 日程 2026年3月2日から9日の8日間

5. スケジュールと研修内容（予定）

3/2(月) 1日目	午前：福岡空港国際線ロビー集合 福岡空港から台北へ。(約2時間) 桃園空港から松山空港(国内線)まで移動。(東大と合流) 松山空港から澎湖へ。(約1時間) 手配してある貸切バスに乗り、ホテル着。	[澎湖泊]
3/3(火) 2日目	終日：【澎湖フィールド・ワーク】(貸切バス移動)	[澎湖泊]
3/4(水) 3日目	終日：【澎湖フィールド・ワーク】(貸切バス移動)	[澎湖泊]
3/5(木) 4日目	午前：澎湖空港から台北、松山空港へ。(約1時間) 午後：228 国家記念館で中央大学歴史研究所の陳家豪先生より建築の歴史と228 事件背景についての紹介。その後、「228の傷跡」映画鑑賞。映画終了後は、常設展の解説を自由参観。	[台北泊]
3/6(金) 5日目	グループワーク1日目：4つのグループに別れて調査。	[台北泊]

	【午前、午後ともに】各自の興味のあるテーマについてグループに別れ調査。東京大学の学生、九州大学の学生の調査のサポートとして台湾大学と淡江大学の学生さんが数名付き、教員とともに行動。（注3）	
3/7(土) 6日目	グループワーク 2日目：4つのグループに別れて調査。 【午前、午後ともに】各自の興味のあるテーマについてグループに別れ調査。東京大学の学生、九州大学の学生の調査のサポートとして台湾大学と淡江大学の学生さんが数名付き、教員とともに行動。（注3）	[台北泊]
3/8(日) 7日目	午前：午後の発表に向けてホテルで各自準備。 午後：国立台湾大学を散策。15時から国立台湾大学にて日本人学生と台湾人学生の交流会。各グループ20分程度今回の海外研修で学んだことについてプレゼン。 その後、交流食事会（打ち上げ）	[台北泊]
3/9(月) 8日目	ホテルチェックアウト後、台北101や中正記念堂へ。 昼食後、桃園空港へ移動。 夕方の便で桃園空港から福岡へ。（約2時間） 福岡空港到着後、空港で解散。	

注3) 26日、27日のグループワークは参加する学生の希望を聞きながら訪問先を決める。
参考までに昨年の訪問先は、以下の通り。

【一日目】(昨年の事例)東京大学、九州大学混合で4つのグループに分かれ、九大グループは全員グループD「台湾の民主化と言論の自由」に参加。

グループD(台湾の民主化と言論の自由)：総統府、国立中正記念堂、殷海光故居、陳文成基金会

【二日目】

グループD(台湾の民主化と言論の自由)：国家人權博物館 白色テロ景美記念園區、国立政治大学選挙研究中心、日本台湾交流協会、済南教会

6. 大学の支援内容と自己負担内容

フィールドワーク全体でかかる費用(交通費、宿泊費等を含めて)は15万円程度(全額自己負担)を想定している。宿泊場所は、大学のゲストハウスもしくはホテルを予定。なお、海外旅行保険は、学研災付帯海外留学保険(略称:付帯海学)に必ず加入しなければならない。加入方法は、派遣候補者決定後に参加申請書記載のE-mailアドレス宛に通知する。

7. 申請方法と期限

➤ 申請期間：2026年1月下旬（①と②の提出期限）

➤ 申請書類：

① 「台湾フィールド・ワーク 参加申請書」

② 「台湾フィールド・ワーク 志望理由書」

▶ 申請方法:

上記書類を台湾スタディーズ・プログラム(台湾 SP) (kyudaitaiwanstudies@gmail.com) に提出。

8. 選考

「参加申請書」、「志望理由書」をベースに選考の上、派遣候補者を決定する。なお必要に応じて面接を行なう場合がある。選考結果は締切後数日以内に参加申請書記載の E-mail アドレス宛に通知する。

9. 事前学習

台湾 SP 関連の授業を受けていない学生に関しては、フィールドワークの前に台湾関連授業をできるだけ受けること(履修もしくは聴講)。参加予定の学生は後日日時を設定する事前学習を義務付ける。(東京大学が行う事前授業(オンライン)に関しても日程をお知らせするので、参加できるものは参加すること。)

台湾関連授業は、2026年1月24日、25日、31日、2月1日に行われる基幹教育科目「台湾事情」、もしくは2026年2月16日から19日まで行われる集中講義「教育から台湾を知り、台湾から教育を考える」が想定される。その他の台湾関連の授業を履修した学生はその授業がこのFWの事前学習科目に該当するのかを担当者まで問い合わせること。

10. 単位認定

本事業「台湾フィールド・ワーク」は、教育学部専攻教育科目の「Overseas Fieldwork II (1単位)」として単位認定を行う。なお、学部一年生が参加した場合の単位認定は行わないものとする。また、本事業により認定された単位を自身の卒業要件の単位に含めることができるかどうか不明な場合は、各自で所属する学部の教務担当係に確認すること。

11. その他

記入がわからない場合、参加に際しての心配事などがある場合などに対して事前の相談用オフィスアワーを設けるので、前原までメールでアポイントメントを取ること。
(maehara.shiho.030@m.kyushu-u.ac.jp)

12. 提出先・問い合わせ先

- ・「台湾フィールド・ワーク 2025」全般について
台湾スタディーズ・プログラム(台湾 SP)担当 前原志保: (maehara.shiho.030@m.kyushu-u.ac.jp)